

# エウシカノート

～三田祥雲館の探究～

\_\_\_\_\_講座 班ID\_\_\_\_\_

生徒番号 **1年次** \_\_\_\_\_

**2年次** \_\_\_\_\_

**3年次** \_\_\_\_\_ 名前\_\_\_\_\_



兵庫県立三田祥雲館高等学校 **24 回生**



Eureka

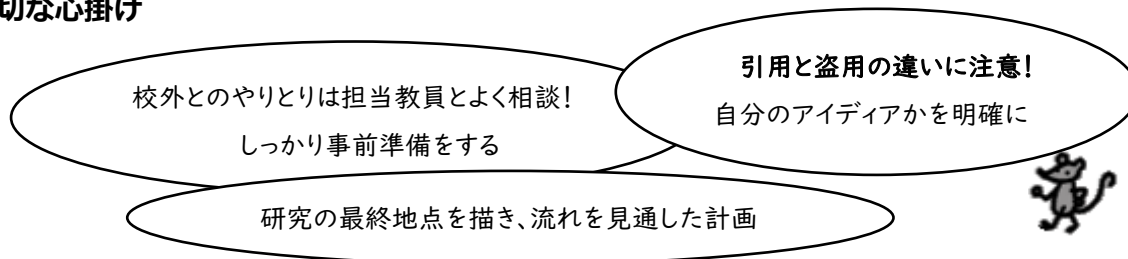
## 研究の段階（日付等を入れて各自活用してください）

	到達予定目安	チェック	
テーマ設定			
目的・目標設定			
研究計画細案			
情報収集・分析(前半)			
情報収集・分析(後半)			
ポスター作成			

# さあ、探究をはじめよう！

いよいよ探究活動が始まります。SS 探究 I で培った基礎を生かして知的好奇心を追求しよう！

## ※大切な心掛け



●は通年評価の参考資料（評価は他に発表やポスター等）

ガイダンス		Contents	page
		1. 令和8年度 年間活動計画	2
		2. SS 探究全体ルーブリック	4
		3. SS 探究 II 文理共通年間評価計画	5
		4. 研究倫理・課題研究のルール	6
		5. 主なコンテスト・発表会一覧	8
2 年 次	RQ 設定 研究計画	0. 先輩の研究内容を聞こう〔1,2 年次合同探究 Day〕	10
		1. 先行研究論文を読もう & 調べよう ●	12
		2. 引用・参考文献リスト ●	16
		3. 研究テーマを考えよう	18
		4. リサーチクエストと仮説の設定 ●	20
5. 前期面談評価 ●		21	
中間記録		6. 研究計画書 & 進捗管理表 ●	22
ポスター作成 発表		7. 中間発表（スライド下書き用）	24
		8. 探究祭の記録	26
		9. 研究発表ポスターをつくろう & ポスターレイアウトシート	28
		10. 研究発表をしよう～発表のポイント、チェック項目	32
		11. ポスター評価シート	34
		12. 後期面談評価 ●	35
まとめ 振り返り		13. 年間自己評価 ●	36
		14. 2 年次の振り返り ●〔1,2 年次合同探究 Day〕	37
		15. 2 年次探究活動の整理〔論文準備/2 年次春課題〕	38
3 年 次	論文作成	1. 研究論文レイアウトシート	40
		2. 研究論文評価シート	41
		3. 研究論文テンプレート	42
		4. 3 年次探究祭の記録と探究活動自己評価	44
		5. 進路実現に向けて	46
活 動 記 録	日々の記録 データ記録	1. 校外活動記録 ●	48
		2. 講演会ワークシート	50
		3. 日々の記録 ●	54
		4. 自由記述欄（収集データ、考察、コメント等） ●	72
		5. 連絡先リスト	96

# 1. 令和8年度 SS探究II 年間活動計画（文系）

回	月日	曜	流れ	内容 ★発表評価 ●提出	備考 ●評価材料
1	4/17	金	ガイダンス	全体ガイダンス、春季休業課題提出	●春季課題（先行研究論文）
2	4/24	金	RQ設定 研究計画	RQ設定①	
3	5/1	金		RQ設定② 前期面談期間（適宜）	●前期面談評価
4	5/8	金		RQ設定③	
5	5/15	金		研究計画①	
6	5/22	金		RQ決定 ●探究タイトル提出① ●SSHアンケート回答（前期）	●RQと仮説の設定
7	5/29	金		研究計画②	
8	6/5	金		★研究計画講座内発表	●研究計画書 ●研究計画発表
	6/12	金		（祥雲祭）	
9	6/19	金		データ収集 処理	データ収集①
10	6/26	金	データ収集②		
	7/3	金	（前期7月考査）		
11	7/		探究アワー ●探究タイトル提出②（中間発表時のタイトル） ●探究祭見学希望入力 夏休みの計画		
	夏季休暇				
12	9/4	金	夏季活動報告、データ収集③ 講座内中間発表準備		●エウレカノート提出 前期分 （自由記述部分、日々の記録）
	9/11	金	（修学旅行）		
13	9/18	金	★講座内中間発表（探究祭りハ）		●中間報告のスライド ●中間発表
14	9/25	金	探究祭準備		
15	9/29	火	探究祭「中間発表」		
16	10/2	金	データ収集 データ分析 ポスター作成 発表準備 発表	探究祭の振り返り、進捗管理表後半作成 データ収集④	
17	10/9	金		データ収集⑤	
18	10/16	金		データ収集⑥	
	10/23	金		（後期10月考査）	
19	10/30	金		ポスターガイダンス（大講義棟） ポスター作成準備（講座別）	
20	11/6	金		データ収集⑦、ポスター作成準備	
	11/13	金		（創立記念芸術鑑賞会）	
21	11/20	金		データ収集⑧、ポスター作成①	
22	11/27	金		●SSHアンケート回答（後期） データ収集⑨、ポスター作成②	
	12/4	金		（後期12月考査）	
23	12/11	金		ポスター作成③ 後期面談期間（適宜）	●後期面談評価
24	12/18	金		ポスター作成④ 発表練習	
	冬期休暇				
25	1/15	金		★ポスター講座内発表	●ポスター発表
26	1/22	金	ポスター修正 ●探究タイトル提出③（提出ポスターのタイトル）		
27	1/29	金	講座外発表（文系）		
28	2/5	金	修正・振り返り	ポスター提出 〆切17:00 振り返り、まとめ（探究Dayに向けて）	●ポスター提出 ●エウレカノート提出（年間自己評価、 2年次の振り返り、自由記述部分、 日々の記録）
29	3/			1,2年合同探究Day 1年次との情報共有 講演 講義：論文作成について	

## 2. SS探究 全体ルーブリック

三田祥雲館「探究活動」で身につける「自ら学ぶ力」										
学びの基礎力			学びを深める力				学びに向かう力			
①②課題解決に必要な知識・技能		③探究の意義や価値の理解	④課題を発見する力	⑤計画を立てる力	⑥情報を分析する力	⑦表現する力	⑧主体的に行動する力	⑨他者と協力する力	⑩社会に関わる力	
学校生活	学校外									
<b>A</b>	授業の中で「問い」を発見し、課題や自主学習、質問を通じて疑問を解決している。	文献などだけでなく、研究会や講演会などに参加し、自分が目指す進路や将来のキャリア形成に必要な知識や技能を高めている。	現在学んでいることが、今後どのように活用できるか、長期的な目線を持って学習に取り組んでいる。	探究活動を通して、柔軟で多様な視点から未来を見据え、社会的学術的課題を見出すことができる。	段階的で綿密な計画にのっとり、それをよりよく修正しながら継続的に活動できる。	調査・実験により独自に得た情報と、既存の情報を整理し、その関係性を分析することができる。	場面に応じた発表手法を用いて、説得力のある発表ができる。	学内にとどまらず、学会や学習発表会などに参加し、自身の探究活動に生かすことができる。	他者と協力するだけでなく、積極的に学外の他者と協力し、自身の探究活動を深めることができる。	自分の探究活動を通して地域社会や学問の発展に貢献できる。
<b>B</b>	課題や自主学習、質問を適切に行い、授業の理解に努めている。	自分が目指す進路や将来のキャリア形成を考え、ニュースや新聞、文献などから、積極的に知識や技能を得ようとしている。	これまで以上に学んできた様々な知識や技能を課題解決に結び付け、学習に取り組んでいる。	探究活動によって導いた結論から、新たな問いを設定できる。	現実的で具体的な計画を立て、それを修正しながら活動できる。	自分の研究テーマに即して、調査や実験により独自の情報を収集することができる。	話し方を工夫し、聴衆とコミュニケーションをとり、双方向のやりとりがある発表ができる。	課題を自ら設定し、それを解決するための行動ができる。	教員や外部講師とのコミュニケーションを通じて探究活動を深めることができる。	探究活動を通して身に着けた力を、自身のキャリア形成に関連付けることができる。
<b>C</b>	授業活動や課題など、指示されたことは着実に実行している。	興味関心のあることについて、ニュースや新聞、文献などから情報を得ている。	日々の授業や課題の意義を自分なりに考え、取り組んでいる。	自分の研究テーマに即して問を設定し、その仮説、手法を考えることができる。	実行可能な計画を立て、活動できる。	与えられたテーマに即して文献や先行研究から情報を収集できる。	自分の考えを明確にして、相手を意識した姿勢で伝えることができる。	与えられた課題を解決するために、情報を自ら収集することができる。	クラスメイトとのグループワークの中で対話、議論し探究を深めることができる。	社会や自然の問題を自分事と捉え、自身の探究活動を社会や自然との関わりの中に位置づけることができる。
<b>D</b>	授業や課題など、指示されたことを実行しようと努力している。	興味関心のあることについて、時折、ニュースを見たり、本を読んだりする。	日々の授業や課題の意義を深く考えることはないが、授業や提出課題には誠実に取り組んでいる。	与えられた課題に対し、その背景を想像し、課題を考えることができる。	多少曖昧な点はあるが、計画を立て行動する。	与えられたテーマに即してインターネットや新聞など身近なものを利用して簡単な情報収集ができる。	自分の考えを伝えることができる。	与えられた課題を解決するためのアドバイスをもとに情報を収集することができる。	クラスメイトとのグループワークの中で、対話しながら作業ができる。	社会や自然の問題に関心をもち、様々な情報を集めることができる。
<b>E</b>	授業中の指示を理解し、行動することや課題の提出状況など学習に取り組む上で不十分な点がある。	自分自身の興味関心について考えることも少なく、時事問題への関心が薄い。	学びの意義や価値が見いだせず、授業活動や提出物を漫然とこなしている。	与えられた課題に対し、背景をふまえて課題を考えることができない。	現実的な計画が立てられない。	与えられたテーマに即した情報を取捨選択することができない。	自分の考えを口頭で伝えることが十分にできない。	与えられた課題に対して受動的であり、指示されて行動することが多い。	クラスメイトとのグループワークにおいて、積極的に対話することができない。	社会や自然に対しての関心が薄く、新聞やニュースをあまり見ない。

3. SS探究II 文理共通 年間評価計画													理系のみ	
				学びの基礎力		学びを深める力			学びに向かう力			対象	サイエンス探究基礎	
評価時期	評価項目	エウレカ頁	知識	意義理解	課題発見	計画性	情報分析	表現力	主体性	協働性	社会学術		内容	
前期	3月	先行研究論文	14,15		○							個	探究活動に関する基礎知識	
	5月	RQと仮説の設定	20			○					○	個	講座別基礎学習レポート	
		前期面談評価	21	○						○	○	個	講演会レポート	
	6月	研究計画	22,発表		○		○	○				個		
	9月	前期記録(日々の記録・データ)	54,72-		○				○			個		
後期	9月	中間発表	スライド,発表			○		○	○			班	探究活動に関する基礎知識	
	12月	後期面談評価	35		○					○	○	個	講演会レポート	
	2月	ポスター	34,発表	○	○	○		○	○			○	班	背景知識レポート
		後期記録(日々の記録・データ)	前期の続き		○					○			個	
		年間自己評価	36,37	○			○		○		○	○	個	

【発表】 研究計画発表、中間発表（探究祭2部リハーサル）、ポスター発表の3回行う。

【面談】 必要に応じて随時行う。年間計画の日程を目安として年2回評価する。

【自由記述部分の活用】 収集情報、実験やアンケートデータ、資料やコメント、協議の軌跡、各自の考察等を内容と情報量で評価する。

## 4. 課題研究を進める上でのルール

自らテーマを設定し課題研究に取り組むことで、情報収集力や課題発見力、論理的思考力など、今後社会で活躍していくために必要な様々な基礎力を身につけることができます。ただ、「自らテーマを設定する」といっても、なんでも好きなことを好きなように研究していいというわけではありません。研究を進め、成果を発表するためには、全員が守るべきルールや考えがあります。



### I 研究不正とは 課題研究メソッド P106-108 をまとめましょう

① 「改ざん」

② 「捏造」

③ 「盗用」

## 2 研究計画に対する注意点

- ① 人を対象とする研究 人を対象とした実験は× アンケート等は守秘義務を考慮
- ② 動物を対象とする研究 脊椎動物に苦痛を与える実験は×
- ③ 危険性のある生物や化学物質、装置を使った研究 原則× 場合により担当教員とよく相談
- ④ 校外・野外での研究 マナーを守る 常に校外は× 担当教員とよく相談

メモ

## 3 研究の実施に関する注意点

- ① データの収集 人権・環境に配慮する
- ② 研究ノートの記録 再現性のある記録、公開に耐える記録
- ③ 解析方法

メモ

## 4 研究におけるコミュニケーション 研究は3~4人のグループで行います

- ① 情報を共有しよう
  - ・依頼や回答、重要な情報の共有は直接のコミュニケーションで行う。
  - ・研究内容や研究計画は、全員が把握しているようにする。
- ② 仕事を分担しよう
  - ・研究の負担が一部の班員に偏らないようにする。
- ③ 互いに議論しよう
  - ・たとえ意見が違っていても、相手の話には誠実に耳を傾ける。
  - ・不正や間違いがあったら、きちんと謝罪し訂正する、または指摘する勇気をもつ。
- ④ 約束は守ろう
  - ・分担した仕事は責任をもってしあげる。
  - ・分担が果たせないことがわかったら、できるだけ早い段階で班員に伝える。

メモ

## 5 校外の方にご協力を仰ぐとき

学校外の様々な方々の知見を共有させていただくことは、とても貴重な経験になります。積極的に校外に出ましょう。ただし、学校内よりも、相手の方のご都合を考える想像力や心配り、マナーをしっかりと守る必要があります。校外活動をする際は、以下の項目を再確認してください。

- ・貴重なお時間を頂いていることを忘れない。
  - ・内容は簡潔に。相手に協力してもらう負担を極力少なくする工夫を。
  - ・約束の日時は確実に守ること。部活、学校行事等は先方にとって理由になりません。
- ※ くれぐれも、自分の予定をよく確認してから日時を決定すること

### ①校外活動開始

第1回目の先方との打ち合わせの前に、担当の先生と内容や文言を精査する。

授業内に校外にて活動をするときは、「校外活動届」(※1下図)を担当の先生に提出する。

### ②協力者との接触

連絡手段の確保 電話が良いのかメールが良いのかを聞く(1本目は電話、以降はメールを推奨)

(電話だと連絡をとりにくい。メールでも休みにも取れるメールを伝え、返事は翌日には出すようにしたい。)

やり取りについてはその都度担当者に報告をする。訪問日があるなら少なくとも2週間前には決定を)

### ③お礼

目途がついた時点でご協力いただいたことにあらためてお礼をする。探究祭などの発表の機会をお伝えし、完成物(ポスターや論文)ができたからお渡しすること。後輩がまたお世話になるかもしれないことも考え、今後とも良きお付き合いをしたい旨お伝えすることが望まれる。

### ※1 校外活動届

令和6年度 SS 探究Ⅱ「校外活動届」

**必ず担当者・保護者の許可を得ること**

※班で活動する場合でも一人につき一枚提出してください。

名前	生徒番号(4ケタ)・名前 ( )
講座	文系・理系 人文社会 A・B・C・D
いつ	※利用できる授業時間は探究Ⅱの授業時間に限る。 令和( )年( )月( )日 時間( ) ~ ( )
活動場所	施設名(フルネーム) . 訪問先の住所・連絡先(電話番号など) . 担当の方のお名前 .
活動内容	.
活動場所への行き方	.
保護者の許可	授業中に校外で活動する許可を保護者から得ているか。 ( )了承している ※○を付けてください。
学校への連絡	活動終了後、すぐに班の代表者が電話で報告を行うこと。 (学校 079-560-6080)。 【報告の内容】終わりの SHR に出席できる。 または、 SHR には間に合わないが、部活動等で学校に戻る。 または、 直帰する。 講座担当の先生→不在の場合は探究情報推進部の先生へ。

### 【備考】

校内外での活動について、他にも内容により以下のような届けが必要です。

#### ア) 校内外への調査依頼

→「インタビュー調査届」または  
「アンケート調査届」

※他校の生徒や教員への丸投げ禁止

#### イ) チラシの掲示や配布を希望するとき

→「チラシ・ポスター掲示・配布届」

※校内の指定場所に期限を決めて掲示

※校外の場合は許可が必要

#### ウ) SNS のアカウントを開設するとき

→「SNS アカウント開設届」

※「三田祥雲館 SS 探究」よりフォロー

内容は都度確認してから UP

終了後は削除

## 5. 主なコンテスト・発表会一覧

今年度分の日程は後日連絡。内容変更あり。他にも多くの機会があります。自分でも調べてみましょう。

【コンテスト】 ホームページに過去の実賞作品（動画・論文など）が公開されているものが多いです。それらを参考に早めに計画を立てましょう。

	タイトル	主催	例年エントリー 締切	対象		内容 その他
				文系	理系	
1	観光甲子園	一般社団法人 ネクストツーリズム	5月末	○		テーマに沿った動画提出
2	全国高校生プレゼン甲子園	一般社団法人 プレゼンテーション協会	6月初旬	○		テーマに沿ったプレゼン動画を提出
3	ビジネスプラン・コンペティション KUBIC2021「学生の力」	関西大学	6月初旬	○		書類審査から始まるコンテスト
4	統計データ分析コンペティション	政府統計局	8月初旬	○	○	論文提出 2年次でも挑戦可能
5	エシカル甲子園	徳島県	8月初旬	○	○	エシカル消費の推進や実践アクションプラン
6	全国高等学校ビジネスアイデア甲子園	大阪商業大学	9月中旬	○		書類審査から始まるコンテスト
7	高校生ビジネスプラングランプリ	日本政策金融公庫	9月下旬	○		書類審査から始まるコンテスト
8	マイプロジェクトアワード	認定 NPO 法人カタリバ	12月初旬	○	○	書類審査から始まるコンテスト
9	SDGs Quest みらい甲子園	関西 SDGsQuest みらい甲子園実行委員会	12月	○	○	アクションアイデアプラン
10	中高生探究コンテスト	一般社団法人 CREATION DRIVE	12月下旬	○	○	書類審査から始まるコンテスト
11	SDGs 探究 AWARDS2019	未来教育推進機構	2月初旬	○	○	SDGs 達成に関する作品を提出
12	坊ちゃん科学賞	東京理科大学	7月下旬		○	3年次生推奨 論文コンテスト
13	JSEC 高校生科学技術チャレンジ	朝日新聞	9月下旬		○	3年次生推奨 論文コンテスト
14	日本学生科学賞	読売新聞 兵庫県教育委員会	9月中旬		○	3年次生推奨 論文コンテスト (兵庫県審査あり)

## 【発表会】

	タイトル	主催（開催場所）	例年開催日	申込締切	対象		内容 その他
					文系	理系	
1	高大連携課題研究合同発表会 at 京都大学	兵庫県（京都大学）	11月初旬	9月		○	ポスター発表
2	リサーチ・フェア	関西学院大学 総合政策学部	11月中旬	10月	○		口頭発表 ポスター発表
3	地域課題解決に取り組む高校生サミット ～兵庫から日本を考える～	県立尼崎小田高校	11月中旬	10月	○	○	ポスター発表
4	〔サイエンスショップ〕 高校生・私の科学研究発表会	神戸大学	11月下旬	10月		○	ポスター発表 口頭発表
5	SCI-TECH RESEARCH FORUM	関西学院大学 (オンライン)	11月下旬	10月		○	スライド発表
6	ひょうごユース eco フォーラム	兵庫県環境部環境政策課	12月中旬	10月	○	○	ポスター発表
7	ひょうご×大阪大学 質問力を鍛えるワークショップ	兵庫県（大阪大学）	12月中旬	11月	○		スライド準備
8	リサーチフェスタ	甲南大学	12月中旬	11月	○	○	スライド発表
9	三田市高校生議会	三田市子ども未来部 子ども育成課	1月下旬	9月	○		推薦書、質問書、発表資料等
10	サイエンスフェア in 兵庫	兵庫県咲いテク委員会 (神戸市ポートアイランド)	1月下旬	11月		○	ポスター発表 口頭発表
11	兵庫県高等学校探究活動研究会	兵庫県教育委員会	2月初旬	12月	○	(○)	ポスター発表
12	三田市学生サミット	三田市総合政策部移住定住促進課	2月初旬	12月	○		プレゼン+交流会
13	共生のひろば	人と自然の博物館	2月中旬	12月		○	ポスター発表
14	サイエンスカンファレンス in Hyogo	兵庫県咲いテク委員会 (神戸大学)	7月中旬	6月		○	英語でのポスター発表 台湾研修参加者等の3年次生
15	SSH 生徒研究発表会	文部科学省 (神戸市国際展示場)	8月初旬	5月		○	学校代表ポスター発表1本 3年次生対象

**0. 先輩の研究内容を聞こう(1.2年次合同探究 Day)** 日時 月 日 ( )

各班の研究内容を聞いて、大まかな内容や感じたこと、興味度などを記録しよう。

\_\_\_\_\_ 講座 全 ( ) 班 最初に集合する教室 \_\_\_\_\_

※最初の探究班での活動です。グループで協力し、よい会にしましょう。

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

研究タイトル) \_\_\_\_\_

講座別の活動記録

研究テーマの設定に向けて

# 1. 先行研究論文を読もう



先人たちの業績を理解し、知識を増やすことは、課題研究を行ううえでの第一歩です。そのために、まず先行研究論文を手に入れて読んでみましょう。

## 1 論文の種類

### ① 原著論文 (Article)

査読制度を採用し、独創性のある最新の研究成果を伝える。論文といえば普通この原著論文のことを指す。

### ② 総説 (Review)

特定の分野やテーマに関する先行研究を集め、体系立ててまとめることで、その分野やテーマの概説や研究動向、展望を示すことを目的としている。その分野の全体像を知るのに便利。

### ③ レター 速報 (Letter Communication)

原著論文に比べると小さい問題、現在進行形の研究成果が記載される。

### ④ 会議録 (Proceedings)

学術会議で発表された内容をまとめた冊子。著名な国際会議は重要な研究発表の場とみなされるため、その会議録は、学術雑誌相当とみなされ、原著論文相当の評価を受けるものもある

### ⑤ 学位論文 (Thesis)

広義の学位論文には、卒業論文、修士論文も含まれるが、通常博士論文のことを指す。

## 2 論文の検索 WEB で論文を手に入れる方法

### 1) 論文検索サイトの例

#### ① J-STAGE

国内で発行された学術論文全文を読むことのできる、日本最大級の総合電子ジャーナルプラットフォーム。実用的な知識、技術紹介、製品紹介等の記事を掲載した一般情報誌なども含む。

日本語で書かれたもの、無料のものが多い。



#### ② Google Scholar

ウェブ検索サイトの Google の提供する検索サービスの一つ。主に学術用途での検索を対象としており、論文、学術誌、出版物の全文やメタデータにアクセスできる。世界中の論文に対応。有料のものも多い。



## 2) 論文を検索したら・・・

### ① タイトルから選ぶ

自分の研究に関係のありそうなタイトルの論文を探しクリックします。タイトルが多すぎる場合は、検索ワードを増やすか、検索条件を追加して、絞り込みます。

### ② 抄録を読む

論文の紹介ページに移ると、「抄録（要旨・abstract）」があります。これを読むことで、どのような研究なのかを具体的に知ることができます。本文は日本語でも、抄録だけ英語で書かれていることはよくあります。英語だからといって、スルーしないように！！

DOI（Digital Object Identifier）を記録しておく、いつでもここに戻ることができます。

### ③ PDF ファイルをダウンロードする

論文の本文は、PDF ファイルとして公開されています。「PDF」ファイルのタグを探し、ファイルをダウンロードします。電子データとして公開されていなかったり、有料であったりすることもあります。



### ④ ファイルを保存する

自分の研究に関係がありそうだと考えた論文は、必ず保存しておきましょう。研究の参考にした場合、自分の論文に参考（引用）文献として記載する必要があります。

## 3 論文を読もう 研究テーマを決めるために、まずタイトルと要旨を♪

論文の構成は、右のようになっています。これから研究テーマを考えるみなさんは、まずは、自分が興味のあるキーワードで検索した論文の「タイトル」と「要旨」だけができるだけたくさん読んでみてください。なんとたくさんの研究があることかとびっくりするでしょう。その上で、自分が取り組むテーマを決めましょう。

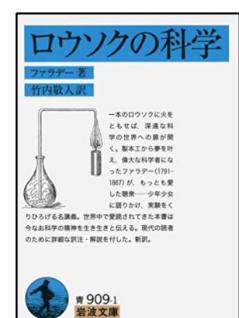
テーマが決まったら、簡単に読めそうなものを1本選び、ダウンロードして本文を読んでください。本文を読むときは、初めからきっちり読もうとするのではなく、図や表を中心にざっくりと読み進めるのがコツです。

### 論文の構成

- ・ タイトル
- ・ 要旨（抄録、アブストラクト）
- ・ 導入（序論）
- ・ 材料及び方法（研究手法）
- ・ 結果 図や表が利用される
- ・ 考察
- ・ 結論、展望
- ・ 謝辞
- ・ 引用文献、参考文献

## 4 先人の業績を理解し、知識を増やすには・・・

書籍も重要です。みなさんの課題研究の参考資料として、学校の図書館には、たくさんの本を準備してあります。是非、のぞいてみてください。三田市や兵庫県の図書館を利用することもできます。これ！という本は、お小遣いを運用して自分で買うのもお勧めですよ(\*^^)v



# 先行研究を調べよう

月 日 提出

## 1 現在考えている研究テーマに関する先行研究論文を読む

- 論文は、「J-STAGE」や「Google Scholar」など正式な論文検索エンジンを利用して探す。
- 祥雲館の先輩の研究論文は対象外。

①【論文タイトル】 省略せずに正確に写すこと	
②【論文の情報】 自分の論文をまとめる際に参考文献として書く場合に必要。論文の PDF でわからない場合は、検索画面にもどるとよい。	
著者（多い場合は、1 番目の名前「他」とする）	掲載雑誌名等
所属	発行年
③【要旨・抄録】 より	
○目的（リサーチクエスチョン） 何を明らかにしようとした研究か？	
○結論（リサーチクエスチョンに対する回答） おおよその研究成果	
④【図・表】 より おおよその研究手法と結果を読み取る	
⑤【全体を読む】 自分の研究の参考になりそうなこと、自分が新たに気づいたこと、疑問に思ったこと	
⑥【引用文献・参考文献】 書かれている引用参考文献から自分がさらに詳しく知るために、気になるものをチェック	





## 2. 引用・参考文献リスト

番	著者名・組織	出版年	タイトル	出版社名等	ページ等	参照日
内容の概要、気づきなど						
例	藤田 香	2017.10月	SDGsとESG時代の 生物多様性・自然資本経営	日経BP社	254ページ	2020.11月
	<p>先進企業や世界の大手企業が、原材料の安定供給や地元との良好関係を長期的に築くために行っている具体的な戦略やトップの考え方。ネスレ、グーグル、イオン、森ビル、花王など。評価方法、法律、用語解説あり。COP10以降、多くの企業が行動指針を改定したことがわかる。水戦略の2016日本トップはトヨタ自動車。</p>					
1						
2						
3						
4						
5						
6						

番	著者名・組織	出版年	タイトル	出版社名等	ページ等	参照日
7						
8						
9						
10						
11						
12						



## キーワードマッピング

## 4. リサーチクエスチョンと仮説の設定

\_\_\_\_月 \_\_\_\_日提出

①テーマ	
②リサーチクエスチョン	
③背景・現状 基礎事項 先行研究	
④学術・社会との 関連・貢献	
⑤仮説	仮説（リサーチクエスチョンの予想される答え）
	根拠

### 【チェックリスト】

	チェック項目		自己評価
1	基礎知識	基礎知識（言葉の意味や定義、関連する制度や法律等）を理解しているか。	
2	背景・現状	研究テーマの現状を示す情報を示しているか。（先行研究・社会問題など）	
3	具体性	掘り下げを行ったうえで、リサーチクエスチョンを立てているか。	
4	難易度/実行可能性	現状調査だけで、すぐに答えが出してしまわないか。研究実施の見通しが立ち、取り組み可能か。	
5	意義	先行研究や現状からそのリサーチクエスチョンに取り組む意義を見込んでいるか。	

### 【評価】

評価項目	A	B	C	D
課題発見	Bに加え、多様な視点から課題の解決を考えている	自分のRQについて、根拠と見通しがしっかり設定されている (③,⑤の内容)	Bを満たしていない	未提出
社会学術	Bに加え、自分のRQが、社会・学術に関する課題解決の視点に立っている	自分のRQについて、社会や学術とどのようなつながりがあるかを考えることができている (④の内容)	Bを満たしていない	

確認

--	--

## 5. 前期面談評価

面談日 月 日 ( )

担当教員	先生	先生
------	----	----

研究テーマ	
-------	--

質問項目を読み、自分が該当すると思う自己評価を下に書きなさい。

評価項目	知識	主体性	協働力	
参照頁	引用・参考文献リスト			
質問	探究活動を進める上で、どのような知識を深めていますか。	主体性を持って行った自分自身の取り組みについて説明してください。	班での自分の役割と貢献度を説明してください。	
評価	A	教科書の枠を超えて、書籍やweb上での信頼性の高い情報を集め記録するなど知識を深める努力をしている。	積極的に専門家に質問したり、校外の情報に触れるなど主体的に動いている。	積極的姿勢で班員をリードしている。新しい提案や、方向性をまとめるなど中心となって取り組んでいる。
	B	様々な場面から信頼性の高い情報を得て、参考にしようとしている。	積極的に班内で提案したり、教師に質問するなど努力している。	班員と対話しながら、協力的姿勢で自分の役割を果たしている。
	C	今ある知識を基に探究活動をしている。	新しい情報を自ら積極的に調べたり、探究内容を深めたりはしていないが、協力をしている。	他の班員に任せる場面が多いが、班員と対話・議論はできている。
	D	探究活動を通して知識を深めるつもりはない。	他者からの指示がなければ行動することができない。	班員との話し合いがしっかりとできていない。
その他	特に深まった知識について	特に主体性を持ってやっていること	自分の主な役割～立案・情報収集・データ収集など	

自己評価			
自己の振り返り (役割分担) (成果・課題)			

確認	
----	--

## 6. 研究計画書

【共同研究者】

月 日提出

番号・氏名				
-------	--	--	--	--

【研究計画】

テーマ	
リサーチ クエスション	
背景・現状 基礎事項 先行研究	
学術・社会 への貢献	
仮説	仮説（リサーチクエスションの予想される答え）
	根拠
研究手法	研究手法（実験・調査・製作など）・手順（必要な段階を記述する）
	外部協力者・問い合わせ先・訪問先・調査対象・参加目標のコンテストなど ・ ・
	参考文献・使用機材（装置・試薬）・必要な準備など ・ ・

【評価】

評価項目	A	B	C	D
意義理解	学んできた知識と課題を結びつけ、課題解決の意義を見出して活動に取り組んでいる。	課題解決の意義を自分なりに考えて取り組んでいる。	課題解決の意義を考えていない。	未提出
情報分析	必要な情報を調査や実験、論文や文献などから得て活用することができている。	情報を活用しているが、情報の信頼性が乏しい。もしくは情報の参考箇所が少ない。	必要な情報を十分に収集できていない	

確認	
----	--



## 7. 中間発表(スライド下書き用)

<p>1 テーマ、RQにつながる社会背景・先行研究</p> <p style="text-align: center;">「 探 究 タ イ ト ル 」</p> <p style="text-align: center;">講座 班 ID (      メンバー名      )</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>背景・現状の課題 または 先行研究</p> </div>	<p>2 研究の目的 (リサーチエスチョン)、仮説</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>目的 (リサーチエスチョン)・仮説</p> </div>
<p>3 研究手法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>情報の収集方法や実験方法など</p> </div>	<p>4 ここまでの結果</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>夏休みの成果、ここまででわかったこと、今後の展望</p> </div>

発表 ス ラ イ ド	表現力	A	前を向いて大きな声で話し、内容や流れもわかりやすい。	B	メモを読んだり下を向いたりしている時間がやや長かったが、大まかな研究内容は伝わった。	C	発言が聞き取りにくい。内容を伝えようとする意志が欠如している。
	課題 発見	A	新たな課題を発見し、RQを深めている。	B	テーマに沿った問いと仮説を設定し、手法を考えている。	C	課題の設定にあいまいさがある。
	情報 分析	A	必要な情報を、調査や実験、論文、文献などから収集し生かしている。	B	必要な情報を、新聞やインターネットなどから収集している。	C	必要な情報を十分に収集することができていない。

## 8. 探究祭の記録

### 3年次生の研究発表を見て

1	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	
2	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	
3	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	
4	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	
5	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	
6	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	
7	タイトル	講座名（発表者）
	内容要約	
	質問しましたか？ （質問した内容と答え）	

課題研究中間報告

関西学院大学（                    ）学部（                    ）先生からの助言・質問

これからに生かすこと

3年次生からの助言・質問

これからに生かすこと

探究祭で得られたこと、今後の取組みに生かしたいこと

---

---

---

---

---

## 9. 研究発表ポスターをつくらう

良いポスターができると→

情報  
成果

- ① 自分自身の頭の中が整理されます。
- ② 人に関心をもってもらうことができます
- ③ グループ全体が発展します。

を正確に わかりやすく 伝える

研究のストーリーを考え、レイアウトシートを作成しよう

下の書き方を参考に、研究ポスターレイアウトシートを作成することで、自分たちの研究をまとめます。小論文を書くのと同様、研究の発表でも「起承転結」のあるストーリーを意識し、「序論」「研究手法」「結果と考察」「結論」に書く内容を考えます。研究手法と結果・考察の組み合わせは、自分が研究を行った数です。1つでもかまいません。それぞれの枠に書くことが決まったら、「序論と結論」、「研究手法と結果・考察」、「結果・考察と結論」が、それぞれきちんと対応しているかを確認しましょう。それが、論理的に考えるということです。

人に伝えるためには、研究のタイトルも大切です。メインタイトルにキーワードを2つ入れ、研究のおおまかな内容がわかり、何か面白そうだと思わせるタイトルを考えましょう。

三田祥雲館高校 研究ポスターレイアウトシート

### タイトル～サブタイトルをつけてもよい～

- ・研究のおおまかな内容がわかる
  - ×プラナリアの外来種について ○プラナリアの外来種が生態系に与える影響
- ・何か面白そうだと思わせる
  - 現代によみがえるカラクリ人形～お茶運び人形の改良～ ○インスタグラムで変わる成績
  - みそ汁でむくみ解消 ○星形ナンプレの最少ヒント個数

### 序論

「背景」「意義（問題点）」「目的（リサーチクエスト）」「仮説（リサーチクエストに対する予測）」について、簡潔にまとめる。背景について、専門知識などが必要な場合は、「基礎」の項目を分けてもよい。

### （基礎）

論文を理解するうえで必要な専門知識や法則・技法、先行研究について説明する。序論に組み込める程度であれば、この項目は無くてもよい。

### 研究手法（実験、調査）1

### 研究手法（実験、調査）2

### 研究手法（実験、調査）3

### 結果・考察1

得られた研究結果とそれをもとにした考察を簡潔に示す。結果は、グラフや表・図などを利用してわかりやすくまとめる。

### 結果・考察2

### 結果・考察3

### 結論

結論では、結果・考察を踏まえたうえでリサーチクエストの答えや明らかになったことを述べる。研究において、序論と結論が対応していることが大切である。また、結果・考察で書いたことから論理の飛躍が無いように気を付ける。スペースに余裕があれば、今後の課題や展望を加える。

### 引用文献または参考文献

ポスター中に引用した文献は必ず書く。参考文献は、重要なものを2つ程度。

# デザイン

## わかりやすく 魅力的に 伝える

デザインのルールを学び、わかりやすいポスターを作ろう

### 【デザインのルール】

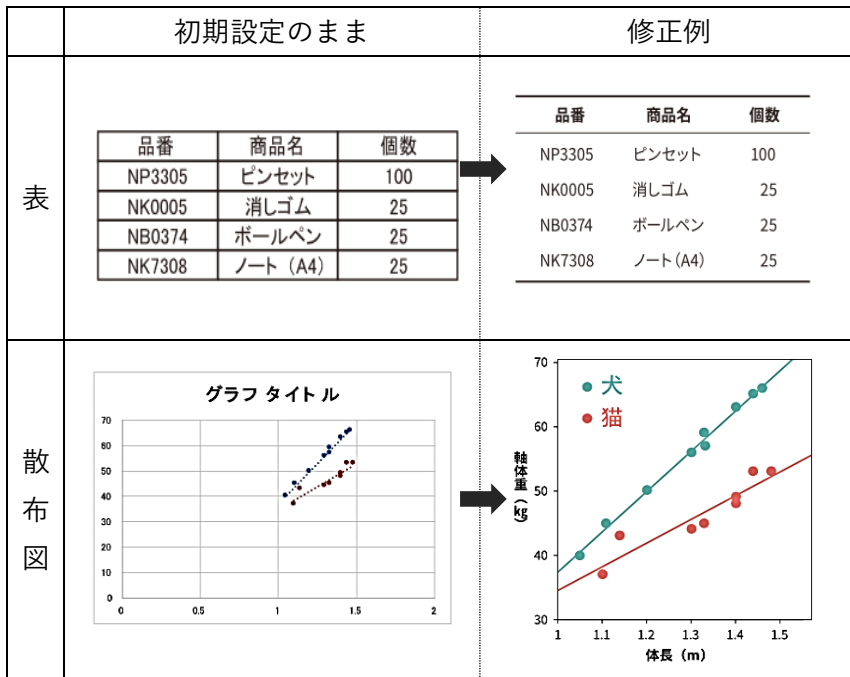
その1 書体（フォント） 個性的な書体は避けて読みやすさを重視する

- ① 見せる文章（タイトル・小見出しなど）                      ポスター    ⇒    ゴシック体が基本
- ② 読ませる文章（文字数が多い文章・書類など）              論文        ⇒    明朝体が基本

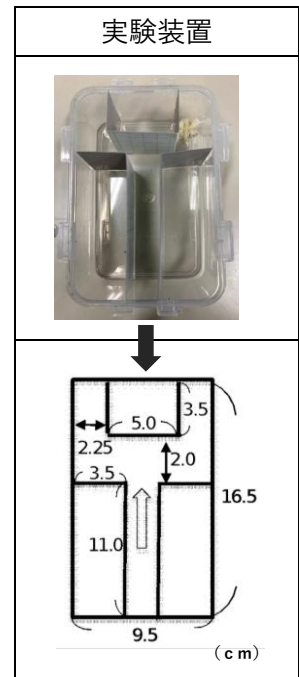
その2 表・図（グラフや写真） 何を伝えたいかを考え、使う素材を慎重に選ぶ！！

- ① 表・図のルール 図は下、表は上に、必ずキャプション（簡単な説明）をつける。
- ② グラフのルール 縦軸、横軸のタイトルと単位、凡例を必ずつける。
- ③ 表・図（グラフや写真）のデザイン
  - ・複数の写真やグラフを使うときは、その種類ごとに大きさをそろえる。
  - ・エクセルで表示される表やグラフはそのまま使わない。（修正例を参照）
- ④ 写真について
  - ・見せたいもののみが協調され、不要なものが写りこまないような写真を撮る。
  - ・サイズを変えるときは、必ず「縦横比」を固定する。
  - ・写真をポスターに貼るときは、「図の圧縮」を選択して、解像度（印刷用）を下げる。
  - ・写真のみに頼らず、実験装置など図示できるものは、図で表す。

◎表とグラフの修正例



◎ 図示の例



※ポスターのテンプレートは、提示フォルダ>ポスターテンプレート にあります。

★手元に置く際は、必ずコピーをすること★

その3 文章の配置と簡条書き 行頭（小見出しも）左揃えを基本とする

- ① ちょうどよい行間にする。  
項目ごとのまとまりは、行間より少し広めの段落間隔をとると理解しやすい。
- ② 行長を長くしすぎない。⇒段組みを利用。
- ③ 小見出し等は文字の大きさに強弱をつける。

**文字サイズ：大きければよい？**  
読みやすいレイアウトは存在する！

- 行間・字間・書体・改行に注意。
- 文字のサイズや太さに強弱をはっきりつける。

答えはひとつではない！

- 状況によって最適なレイアウトは異なる。
- センスやスタンスも人により様々である。
- ルールが分かれば誰でも改善！
- 個性とルールは決して相容れないものではない。

**文字サイズ：大きければよい？**  
読みやすいレイアウトは存在する！

- 行間・字間・書体・改行に注意を払う。
- 文字のサイズや太さに強弱をはっきりつける。

答えはひとつではない！

- 状況によって最適なレイアウトは異なる。
- センスやスタンスも人により様々である。

**ルールが分かれば誰でも改善！**

- 個性とルールは決して相容れないものではない。

✕ 強弱がない

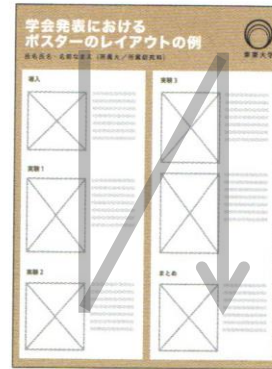
○ 強弱がある  
段落間隔もある

その4 配色 色の使い過ぎに注意！合計4色を基本にする

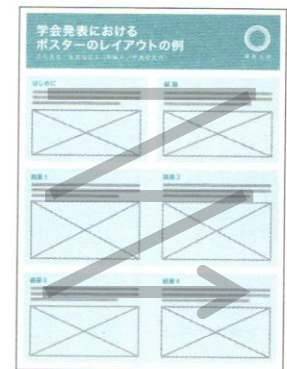
- ① **背景色**：ふつうは白、スライドやポスターでは変えることが可能  
**文字の基本色**：黒または灰色  
**メインの色**：全体を通じたイメージカラー。タイトルや小見出しの色として使う。  
**強調の色**：重要度の高い単語、文章に用いる。目立つ色を用いる。メインの色の補色でもよい。
- ② 彩度の高すぎる標準色は使わず、少し抑えた落ち着いた色を使うのがベター。

その5 レイアウトの基本 情報の構造を明確にし、視線の流れを意識する

- ① **読む順番を迷わない配置**にする。人の視線の流れは、逆NかZの方向。
- ② 項目ごとにグループ化する。(序論 方法 など)
- ③ それぞれの**囲みごとに、余白を十分**にとる。
- ④ 文字やオブジェクトの配置を、**左揃えを基本**にして揃える。ガイド線を利用するとよい。
- ⑤ 文字の大きさ、色などを利用し、強弱をつける。
- ⑥ 項目ごとの従属関係を明確にする。「大見出し」「小見出し」など、それぞれの大きさや色を統一する、「見出し」の横には文章を書かない、など。
- ⑦ 文字や図形、イラスト、写真など、イメージに合う効果的な**アイキャッチャー**を配置すると、より魅力的になり人の目をひくことができる。

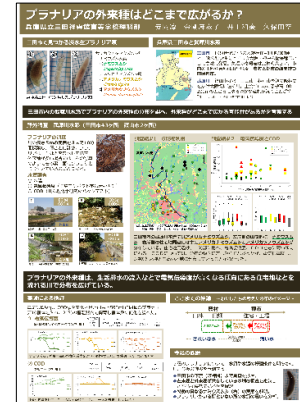
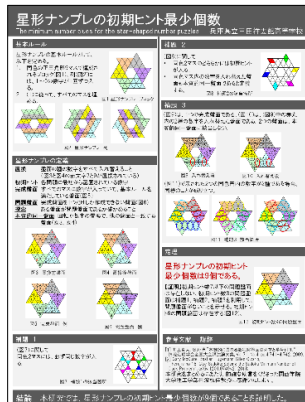


逆N型



Z型

【実践】 研究発表ポスターのレイアウトの例



【引用文献】 伝わるデザインの基本 高橋佑磨・片山なつ著 技術評論社

<http://tsutawarudesign.com/index.html> 研究発表のユニバーサルデザイン

# 研究ポスターレイアウトシート

タイトル ~メインタイトルにキーワードを2つ入れる。サブタイトルをつけてもよい。~

①

序論

②

(基礎)

③

研究手法 (実験、調査) 1

④

④

研究手法 (実験、調査) 2

⑤

⑥

研究手法 (実験、調査) 3

⑥

⑧

結果 1

考察 1

⑦

⑤

結果 2

考察 2

⑧

⑦

結果 3

考察 3

⑨

⑨

結論

⑩

展望

⑪

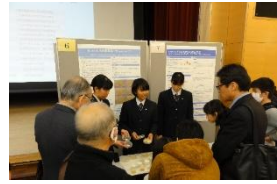
謝辞 (外部の方に協力いただいた場合)      引用文献・参考文献

⑫

## 10. 研究発表をしよう～発表のポイント、チェック項目

研究発表は、他人に直接研究内容を語る事ができ、研究を前進させるアイデアをもらえる絶好の機会。研究は発表してなんぼ。伝えたい気持ちを前面に出して楽しんで発表しよう。

### プレゼンの種類



	口頭発表 Oral Presentation	ポスター発表 Poster Presentation
方法	スライドを使い着席した聴衆の前で発表する	ポスターを使い、集まってきた聴衆に発表する
発表	発表を終えてから、質疑応答を行う。	質問には臨機応変に対応し、説明を工夫する。
工夫	聴衆の集中力を持続させるスライドの作成。 質疑応答用のスライドの準備も。	ポスターに入りきらない情報（図や写真、現物など）を手元資料として準備しておくとうい。
時間	10分程度が多い。（時間厳守）	説明は5分程度でまとめるのが望ましい。
長所	じっくりと説明できる。多くの人に伝わる。	深い議論ができる。人脈が広がるチャンスがある。

### プレゼンの準備

#### 1 何を伝えたいのかを明確にする

この発表によって、何を一番伝えたいかを明確にしましょう。

#### 2 聞き手がどのような人なのかを知る

相手が小学生か専門家か、理系か文系か、等で伝え方を変える必要があります。聞き手の立場で考え、理解してもらえるように工夫をしましょう。

#### 3 研究の目的から結論までの明確かつ論理的な流れをつくる

聞き手にとって興味深いと思われることに焦点を当て、ストーリーを作ります。行ったことを全て説明する必要はありません。

#### 4 発表資料（スライドやポスター）を慎重に作成する

図や写真、表を多用し、文はなるべく簡潔なものにします。色使い、フォント、文字サイズにも気を配りましょう。

#### 5 読み原稿を作成する 「書き言葉」ではなく「話し言葉」で！

自然に話せるように、声に出しながら文章を作るとよいでしょう。文は短く、ポスターとの整合性も確認しましょう。

#### 6 繰り返し練習する

時間を測りながら、声を出して練習しましょう。文章は暗記するのではなく、発表のストーリー、重要なポイントやフレーズを頭に入れることが大切です。発表の流れが自然に出るまで練習しましょう。十分な準備と練習を行うことで、自信をもって話せるようになります。

#### 7 想定質問を考える

質問を考え、回答を準備します。他の班と質問会などをするのも良いでしょう。

## いざ発表！質疑について

### 1 発表者にとって、質疑応答は自分が成長するチャンス

質問が出たら、興味をもって聞いてくれたことに対してまず感謝の気持ちを持ちましょう。質疑応答から議論を深め、自分の考えの整理、改善に繋げることができます。また、答えられない質問が出た場合は、その場しのぎで誤った情報を伝えず、わからないと答え、できればその理由（その実験はしていない、検討したことがない・・・）を付け加えるとよいでしょう。

### 2 聞き手は必ずリアクション！ 質問、意見、感想を言おう。

人の話を聞いて質問できる力は、社会生活において大変重要なものです。テーマに対する興味を表すことは、発表者にとってうれしいものです。

## チェック項目

発表をする前に、班や講座内で互いにチェックしましょう

発表資料について	
① メインタイトルにキーワードを2つ以上含み、研究内容が大体わかるものであるか。内容とタイトルに矛盾はないか。（サブタイトルは多少キャッチーなものでも良い）	
② 目的から結論までに整合性があるか。ねじれや矛盾がないか。	
③ 図（グラフや写真）、表に適切なキャプションがついているか。	
④ グラフに軸タイトルと単位、凡例が書かれているか。	
⑤ 引用を含む場合、引用元が記されているか。（地図、写真、図版等を含む）	
発表態度について	
① 声がしっかり出ているか。	
② 原稿を見ずに、伝わるように話しているか。	
③ 聴衆を向いて話しているか。	
④ 適切に資料を指し示すことができているか。（ポスター等を隠していないか）	

# 11. ポスター 評価シート

※[ ]はプロジェクト型

評価項目	評価内容		観点別評価					0	1	2	3	4
			知識	意義理解	課題発見	情報分析	社会学術					
1 タイトル 【2点】	タイトル	主題にキーワードが2つ以上あり、内容がわかる		○				わからない	大まかに理解できる	理解できる		
2 はじめに 【10点】	背景・意義	先行研究、客観的事実から研究テーマへとつながっているか				○		研究内容と関係ない、または書いてない	—	主観的に述べられている	—	先行研究や客観的事実に基づいて述べられている
	目的 (RQ, 目標)	問題提起、目的(目標またはRQ)の記述				○		示されていない	—	論点があいまい	—	論点が絞られ明確
	仮説	仮説の説明				○		示されていない、または妥当ではない	—	目的(目標・RQ)に対して妥当である		
3 研究手法 (解決方法) 【8点】	説明	手法の説明		○				示されていない	—	大まかにあるが具体性がない	—	再現が可能な程具体的である
	妥当性	手法の妥当性		○				全く妥当でない	—	妥当であるが、十分ではない	—	妥当である
4 結果[行動] &考察[検証] 【8点】	結果 [行動]	図・表・グラフ・資料等と説明				○		資料やデータのみで説明がない	—	資料やデータをもとに説明があるがわかりにくい	—	資料やデータをもとに妥当な説明がなされている
	考察 [検証]	結果の分析[行動の検証]、また結果[行動]が複数ある場合も、結論につながる考察がある				○		考察[検証]がなされていない	—	結果[行動]に対する考察[検証]はあるが、妥当ではない	—	結果[行動]に基づいて妥当な考察[検証]がなされている
5 結論[成果] 【4点】	結論 [成果]	結果・考察[行動・検証]を踏まえてRQの答え[目標と成果]を述べる				○		結論がない。RQ[目標]に関連がない	—	RQの答え[目標の成果]があるが、結果・考察[行動・検証]から飛躍がある	—	RQの答え[目標の成果]が結果・考察[行動・検証]から論理的に述べられている
6 体裁 【12点】	引用文献 参考文献 (謝辞)	引用・参考文献、外部からの指導への謝辞	○					ない	一部が不十分	形式に従っている		
	デザイン	見やすさ、要素のつながり、フォント、色、図表のレイアウト	○					多くが不十分	一部が不十分	適正		
	表現	マジックワード、言葉の定義	○					不十分	—	一部が不十分	—	適正
	図表・資料	表や図のキャプション、単位、グラフの縦横軸の名前、図表番号と本文との一致	○					多くが不十分	—	一部が不十分	—	適正
7 その他 【6点】	着眼点	新規性、独自性があるか				○		新規性・独自性が全くない	新規性・独自性があまりない	—	新規性・独自性がある	
	データ量	RQを説明[目的を達成]する上で十分なデータを集められているかどうか				○		ほとんどデータや資料がない	データ量が乏しい、または主観的な内容にとどまっている	データはあるが、十分ではない	客観的に述べるだけの十分なデータ量がある	

※1,3点も可 ※ポスター点 計50点

## 12. 後期面談評価

面談日 月 日 ( )

担当教員	先生	先生
------	----	----

研究テーマ	
-------	--

質問項目を読み、自分が該当すると思う自己評価を下に書きなさい。

評価項目	他の学びとのつながり	他者と協力する力	社会に関わる力	
教師からの質問	他の日々の学び（探究以外の教科、人権学習等）と探究活動は、どの程度関連づけができましたか。	班での自分の役割や貢献度は、どの程度だと考えますか。	探究活動での経験は、あなたの考え方や進路意識、社会とのつながりをどのように深めましたか。	
評価	A	他の学びと探究活動とを結びつけることにより、知識・技能をより深めることができました。	全体を見て班員をリードし、中心となって取り組んだ。	学校外の活動に積極的に参加し、成長の糧となる経験を積み、社会・学術課題への関心を高めた。
	B	他の学びで得た知識や技能と、探究活動を結びつけながら活動を進めた。	班員と対話しながら、協力的姿勢で自分の役割を果たした。	学校外の活動に参加し、社会・学術課題について関心を高めた。
	C	探究活動での学びについて深く考えることなく、粛々と活動した。	班員と対話・議論はできたが、他の班員に任せる場面が多かった。	社会・学術課題に関心はあった。
	D	探究活動での学びに対して意欲がない。	班員としての役割が果たせなかった。	社会や自然に対して関心が低く、学校外での活動に消極的であった。
	記述欄	探究活動で学んだ主な知識	自分の主な役割に○を（複数可） 立案・データ収集・ スライド、ポスター製作 その他（ ）	社会課題について意識したこと

自己評価			
自己の振り返り （役割分担） （成果・課題）			

確認	
----	--

## 13. 年間自己評価

★探究活動をふり返り、4つの観点について当てはまると思う評価 A~D に○をし、記述欄に具体例を書きなさい★

	観点	知識・技能	計画を立てる力(準備、提出状況)	表現する力	社会に関わる力
評価	A	探究活動を通して多くの知識や技能を取得し、活用について長期的な目線を持っている。	提出期限やイベント準備が万全であった。計画を発展的に修正しながら充実した探究活動をした。	場面に応じた発表方法や質問への対応など、柔軟で説得力のある表現ができた。	学校外の活動に積極的に参加し、成長の糧となる経験を積み、社会・学術課題への関心を高めた。
	B	探究活動を通して、今後の課題解決に役立つ新たな知識や技能が身についた。	実行可能で具体的な計画を立て、見通しを持って取り組み、提出期限は守った。概ね計画通りに進んだ。	聴衆が聞き取りやすくわかりやすい話し方を意識して、論理的に伝えることができた。	社会・学術課題について意識して活動した。もしくは外部の発表に参加した。
	C	今ある知識や技能を基に探究活動に取り組んだ。	計画からは若干遅れがあるものの、年間計画からは大きく逸れていない。	自分の考えを伝えようとしたが、聴衆に伝わっているかどうかを考える余裕はなかった。	探究活動に関連付けることはなかったが、社会・学術課題に関心を持った。
	D	探究活動への取り組み自体に興味関心が持てなかった。	具体的な計画が立案できなかった。または計画に沿った活動ができなかった。	自分の考えを表現する作業ができていない。または発表活動を全くしていない。	社会や学術課題、地域や自然に対して関心が低く、新聞やニュースなどもあまり見なかった。
	記述欄	探究活動を通して深まった知識	特に計画性を持ってやったこと	発表で表現について意識したこと	社会・学術課題に関して意識したこと
評価参考 P	P16,17 引用・参考文献リスト	P37 2年次の振り返り	P27 探究祭中間報告、P46 校外発表 等	P46 校外発表記録 など	

## 14. 2年次の振り返り(1.2年合同探究 Day で活用)

### 【活動について】

探究活動は計画的に進みましたか。またうまくいった要因、うまくいかなかった原因は何ですか。

満足のいく探究活動ができましたか。また、探究活動を通して学んだことは何ですか

探究活動の中で、一番苦労した点はどこですか。また、それをどう乗り越えましたか

### 【自己評価】 SS 探究Ⅱで伸びた力を自己分析してください 5段階評価

(5 自分の武器となった 4 自信になった 3 力がついた 2 力がついたような気がする 1 以前と変わらない)

主体性	協働力	計画性	情報収集分析力	論理的に考える力	課題発見力	文章力	プレゼン力	社会性

### 【後輩へのアドバイス】

### 【今後に生かすこと】

この内容をふまえて1年次生へアドバイスをしてあげてください。この成果をよい論文にしていこう！

## 15. 2年次探究活動の整理 ～ 論文準備: 論文を書く前に、班で探究活動の整理をしよう

1. 探究タイトル
2. 自分たちが明らかにしたかったこと
3. 新たに分かったことの整理～ 先行研究でわかっていたこと(既存のデータ)と、自分たちの探究活動で新たに分かったことを簡潔に整理
4. 探究活動を掘り下げる
(1) 探究活動によって何がわかったのか(成果)
(2) できなかったこと、解決しなかったこと、仮説の訂正 例) 予備実験を試みたら仮説通りにいかなかった、1回目のアンケート結果が予想と違うものになった、 など、苦労した(あがいた)ポイント
(3) 探究活動を行うことによって深まった内容、新たな課題
(4) 探究活動全体を通じての気づき、その他

※ これから論文を書く前に、参考文献(エウレカノートP16,17 参照)を見直し、裏付けが薄いと感じたら春休み中に蓄積しておきましょう。参考文献が1冊だけ、ネットだけ、にはならないようにしましょう。

# 1. 研究論文レイアウトシート

タイトル ~サブタイトルをつけてもよい。どちらかにキーワードを2つ入れること~

要旨

①

序論

②

基礎

③

研究手法（実験、調査）1

④

④

研究手法（実験、調査）2

⑤

⑥

研究手法（実験、調査）3

⑥

⑧

結果1

⑦

⑤

結果2

⑧

⑦

結果3

⑨

⑨

考察1

考察2

考察3

結論

⑩

展望

⑪

謝辞 引用文献・参考文献

⑫

## 2. 研究論文 評価シート

※[ ]はプロジェクト型

		説明	0	1	2	3	4
1 タイトル・要旨 【6点】	タイトル【2点】	タイトルから研究の内容がわかるか。キーワードを2つ以上含んでいること。	研究内容がわからない。	おおまかに理解できる。	理解できる。		
	要旨【4点】	背景、目的、仮説、研究手法、結果・考察、結論・展望がわかるか。	研究内容からかけ離れている。	要素にかなり不足がある。	要素に一部不足がある。	必要な要素は記載している。	わかりやすくまとめている。
2 序論 【12点】	背景(基礎)【4点】	背景が社会や学術の流れに触れているか。専門知識についての説明があるか。	研究の内容に関係がない。	—	主観的に述べている。	先行研究や客観的事実に基づいて述べている。	客観的事実等に基づいて、わかりやすく述べている。
	目的(RQ,目標)【4点】	研究の目的(RQまたは目標)が明確か。	示されていない。	—	論点があいまい。	—	論点が絞られ明確である。
	意義【2点】	社会や学術への貢献について述べられているか。	示されていない。	先行研究や事例がなく主観的。	社会や学術への貢献が示されている。		
	仮説の設定と根拠【2点】	先行研究や事例、現状データをもとに仮説が設定されているか。	示されていない、または妥当でない。	仮説は書かれているが根拠が不明。	根拠と共に示されている。		
3 研究方法 【8点】	説明【4点】	説明を見て調査の詳細がわかるか。もしくは研究の再現ができるか。	示されていない。	—	具体性に欠ける。	詳細に書かれている。	表現を工夫し、わかりやすくまとめている。
	妥当性【4点】	RQ解明のための手法として妥当か。	全く妥当でない。	—	妥当であるが、十分ではない。	—	目的達成のため、十分であり妥当である。
4 結果[行動]・考察[検証] 【8点】	結果[行動]【4点】	結果をわかりやすくまとめているか、データの説明は適切か。	データの羅列のみで説明が無い。	—	データをもとに説明があるが妥当ではない。	データをもとに妥当な説明がなされている。	妥当な説明をわかりやすくまとめている。
	考察[検証]【4点】	結果の理由や考えうる可能性を吟味する。結論、展望へ続く内容か。	考察[検証]がなされていない。	—	考察[検証]はあるが、論理に飛躍がある。	考察[検証]が妥当である。	考察[検証]が妥当で、わかりやすく述べている。
5 結論[成果]・展望 【8点】	結論[成果]【4点】	結果・考察[行動・検証]を踏まえて、RQの答え[目標に対する成果]を述べているか。	結論がない。	—	示されているが、論理に飛躍がある。	結果・考察[行動・検証]を踏まえて、妥当な結論を述べている。	結果・考察[行動・検証]を踏まえて、論理的にわかりやすく述べている。
	展望【4点】	社会・学術への貢献、新たな問いへのつながりを述べているか。	示されていない。	—	抽象的。次の研究へのつながりが不明。	—	具体的。次の研究へつながる。
6 体裁 【8点】	引用文献・参考文献【2点】	形式に従って書かれているか。	必要な文献が記載されていない。	形式に間違いがある。	必要な文献が正しく記載されている。		
	表現【2点】	体裁や日本語表現が適切か。マシクワード、定義されていない言葉、不快・差別的な表現はないか。	多くが不十分	一部が不十分	適正		
	表記【2点】	表記が適切か。誤字脱字、フォント、文字の大きさの統一など。	多くが不十分	一部が不十分	適正		
	図・表【2点】	図や表の記載が適切か。キャプション、単位、縦軸横軸の名前、図表番号の本文との一致。	多くが不十分	一部が不十分	適正		
合計		【50点】					

### 3. 研究論文テンプレート

(1 ページ目だけ 2 行空ける)

ファイル名 TH24415 祥雲花子

不  
組  
不  
番

## 研究テーマ

～サブタイトル (メインテーマかサブタイトルにキーワード2つ以上を用いる)～

○○講座 24回生 組番 祥雲 花子  
祥雲 太郎 三田 次郎 学園 一子

#### 要旨 (Abstract)

研究の要旨を簡潔に (400 字まで) にまとめる。「背景」「意義 (問題点)」「目的」「重要な手法」「重要な結果と考察」「結論」の順に書くとよい。

#### 序論 (Introduction)

「背景」「意義 (問題点)」「目的 (リサーチクエスション)」「仮説 (その根拠)」について、文章にまとめる。背景について、専門知識などを加え詳しく記す場合は、「基礎」の項目を分けるとよい。

#### 基礎 (Fundamentals)

論文を理解するうえで必要な専門知識や法則・技法、先行研究について説明する。序論に組み込める程度であれば、この項目は無くてもよい。文献を引用する場合は、課題研究メソッドに従い正しく記し、論文末に「引用文献」を正しく記載すること。

#### 研究手法 (実験、調査、実践など) (Methods)

読者がその研究を再現できるよう、客観的な表現で、できるだけ具体的に書く。

#### 結果・考察 (Results & Discussion)

得られた研究結果とそれをもとにした考察を示す。結果は、グラフや表・図などを利用してわかりやすくまとめる。グラフや表のキャプションのつけ方のルールは次頁を確認すること。個々の結果について、その結果になった理由やその結果から言えることを考えるうる可能性を挙げ吟味する。

#### 結論・展望 (Conclusions)

結論では、結果・考察を踏まえたうえでリサーチクエスションの答えや明らかになったことを述べる。論文において、序論と結論が対応していることが大切である。また、結果・考察で書いたことから論理の飛躍が無いように気を付ける。展望 (今後の課題) では、研究成果の意義を示し、生まれた新たな問いや解決できなかったことから次の研究へとつなげる。それぞれの内容が豊富な場合は、結論と展望の項目を分けてもよい。

#### 謝辞 (Acknowledgements)

研究を手助けしてくれた外部関係者がいる場合に必要。校内の教員は対象外。

#### 引用文献 (References) または参考文献 (Bibliography)

課題研究メソッド (P. ) を参照し、正しく記載すること。記載する文献が、引用なのか参考なのかを区別し、どちらかのタイトルを書く。(両方ある場合は、項目を分ける)

## 論文を作成するための確認事項

### 1 用紙サイズとページ設定

A4版、横書き1段組、1行44文字、1ページ43行。余白は、上下25.4mm、左右19mm。  
なお、論文の文字数は、図や表を含めず**本文（要旨～結論・展望）のみで4000字以上**とする。

### 2 論文の構成・書き方

#### (1) タイトルと執筆者（グループ研究の場合は共同研究者）

論文のタイトルは**ゴシック14pt太字**、サブタイトルは12pt、執筆者氏名は明朝10.5pt。

執筆者氏名は、○回生▲組◇番あとに全角空白を2つ入れ、苗字と名前の間に全角空白を1つ入れる。共同研究者名を2行目に加える。

#### (2) 本文の文字サイズとフォント

**項目タイトル（大見出し）は11pt太字、中見出しは10.5pt太字、小見出しは10.5pt。**

全てゴシックとし、本文はすべて明朝10.5pt。

#### (3) 構成

テンプレートを基本とするが、文章量の多い論文は、章立ての構成にするのもよい。その場合、原則として次のような通し番号をつける。

**第1章、第2章、第3章…またはⅠ、Ⅱ、Ⅲ …（11ptゴシック太字）**

**第1節・第2節・第3節…、または1・2・3 …（10.5ptゴシック太字）**

**第1項・第2項・第3項…、または（1）・（2）・（3）…（10.5ptゴシックノーマル）**

#### (4) 用字・用語・文体

常用漢字・現代かな遣いとする。ただし、各専門分野における述語・専門用語についてはそれらに従う。文体は「…だ。…である。」調とする。英数字は半角、ただし、項目番号や「1つ」「2つ」などは全角とする。和文の句読点は「、。」で、英文は半角の「, .」でそろえる。

### 3 図・表

図や表は本文中の適切な位置に挿入する。図1、図2・・・、表1、表2・・・のように、それぞれ通し番号をつけ、**番号とキャプションを10.5ptのゴシック体で付けること**。その際、**図のキャプションは下に、表は上**につける。また、引用がある場合は、図や表の下に明示する。

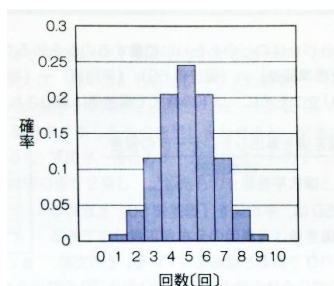


図2. コイントスを10回投げた際に表が出る回数とその確率

表1. 各母集団に対応する許容誤差・信頼レベルに応じた必要サンプル数

母集団	許容誤差			信頼レベル		
	10%	5%	1%	90%	95%	99%
100	50	80	99	74	80	88
500	81	218	476	176	218	286
1,000	88	278	906	215	278	400
10,000	96	370	4,900	264	370	623
100,000	96	383	8,763	270	383	660
1,000,000～	97	384	9,513	271	384	664

アンケート作成サイト Survey Monkey 「アンケートのサンプルサイズ」  
(<https://jp.surveymonkey.com/mp/sample-size/>) より作成

### 4 論文の保存・提出

※論文のテンプレートは、提示フォルダ>論文テンプレート

各自でテンプレートを開き、名前を付けて、**各自のフォルダに保存**する。ファイル名は、左ページ上の通りに設定する。**完成した原稿の提出は、提出フォルダ**を使用する。

論文執筆中の教員とのやりとりの方法は、担当教員の指示に従うこと。また、ファイルの管理については、祥雲館高校でのルールを厳守すること。

論文提出締切 月 日 ( ) 17:00 厳守

## 4. 3年次探究祭の記録と探究活動自己評価

- ◎ 発表を楽しもう！ 伝える工夫をしよう。 他班の発表時は質問をして盛り上げよう！
- ◎ 発表、質問などの経験を通して、成長の一日にしよう！

### 自分の発表の振り返り

感想

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

受けた質問・助言など

---

---

---

---

### 2年次 課題研究中間報告への助言

2年次生に対して行った助言・質問

---

---

---

---

この時間を振り返って

---

---

---

---

---





## 5. 進路実現に向けて(課題研究を利用した自己PR作成 兼 口頭試問の準備)

【進路先への面接をシミュレーションして、各1分程度で話せるように原稿を書いてみよう。】

Q1. あなたの探究活動を簡潔に説明して下さい。

Q2. 探究グループ内におけるあなたの役割と、特に力を入れて取り組んだ内容について教えてください。

Q3. あなたが探究活動を通じて学んだ点、興味関心が高まった点、成長したと思える点は何ですか。

Q4. 探究活動を、卒業後の生活にどう活かしていきますか。

推薦入試を受けるかどうかにかかわらず、自分の取り組んだことを人に伝える力は必要です。

練習も兼ねて、上記の内容で口頭試問を行います。目を輝かせて話しましょう！

※お世話になった外部の人へのお礼も済ませておくこと。成果物（ポスターか論文）の送付を奨励します。

# 1. 校外活動記録

活動内容(主催)			
日時	月 日 ( ) : ~ :	場所	
活動形態・頂いたアドバイス 等			

活動内容(主催)			
日時	月 日 ( ) : ~ :	場所	
活動形態・頂いたアドバイス 等			

## 2. 講演会ワークシート

日時	場所	講師・担当教員名
要点、内容の記録		

講演で得られたこと、今後の目標や高校生活で生かしたいこと

本時の自己評価（あてはまる箇所に○を入れる。複数可）

内容理解（今後の目標ができた・内容はほぼ理解した・一部わからなかった・全体的によくわからなかった）  
参加姿勢（自分の意見を発言、質問等をした・自分事として捉えた・集中して聞いていなかった）

---

## 講演会ワークシート

日時	場所	講師・担当教員名
講演会の要点、内容の記録		

今日の講演で得られたこと、今後の目標や高校生活で生かしたいこと

本時の自己評価（あてはまる箇所に○を入れる。複数可）

内容理解（今後の目標ができた・内容はほぼ理解した・一部わからなかった・全体的によくわからなかった）  
参加姿勢（自分の意見を発言、質問等をした・自分事として捉えた・集中して聞いていなかった）

## 講演会ワークシート

日時	場所	講師・担当教員名
要点、内容の記録		

今日の講演で得られたこと、今後の目標や高校生活で生かしたいこと

本時の自己評価（あてはまる箇所に○を入れる。複数可）

内容理解（今後の目標ができた ・ 内容はほぼ理解した ・ 一部わからなかった ・ 全体的によくわからなかった）  
参加姿勢（自分の意見を発言、質問等をした ・ 自分事として捉えた ・ 集中して聞いていなかった）

### 3. 日々の記録

その日の進捗などを記録しよう。データ、講座別資料等は後ろの記録ページへ（日付を入れる）

月 日 ( )		活動場所 ( )	
班の取り組み		各自の取り組み	
成果、失敗、新たな課題を記録			
次回の予定、それまでの準備			担当教員 印

月 日 ( )		活動場所 ( )	
班の取り組み		各自の取り組み	
成果、失敗、新たな課題を記録			
次回の予定、それまでの準備			担当教員 印

月 日 ( )		活動場所 ( )	
班の取り組み		各自の取り組み	
成果、失敗、新たな課題を記録			
次回の予定、それまでの準備			担当教員 印

## 日々の記録

月 日 ( )		活動場所 ( )	
班の取り組み		各自の取り組み	
成果、失敗、新たな課題を記録			
次回の予定、それまでの準備			担当教員 印

月 日 ( )		活動場所 ( )	
班の取り組み		各自の取り組み	
成果、失敗、新たな課題を記録			
次回の予定、それまでの準備			担当教員 印

月 日 ( )		活動場所 ( )	
班の取り組み		各自の取り組み	
成果、失敗、新たな課題を記録			
次回の予定、それまでの準備			担当教員 印

## 4. 自由記述欄

収集データ・班で話し合った内容や考察・発表でいただいたコメント等、全てここに記録する

### 3. 連絡先リスト

お名前		所属先	
電話番号			
メールアドレス			
住所等			

お名前		所属先	
電話番号			
メールアドレス			
住所等			

お名前		所属先	
電話番号			
メールアドレス			
住所等			

お名前		所属先	
電話番号			
メールアドレス			
住所等			

お名前		所属先	
電話番号			
メールアドレス			
住所等			

